

第1号議案

2021年度事業報告

2021年4月1日から2022年3月31日まで

NPO法人 ほっとねっと

1 事業報告

・障がいのある人への理解を推進し、障がいのある人の人権に配慮した街づくりを積極的に行うため、障がいのある人の主体性、選択性を尊重した以下の事業を実施した。

- ① 障がいのある人が充実した地域生活を行えるよう、介護サービス包括型共同生活援助事業・居宅介護事業・移動支援事業・訪問介護事業・介護予防訪問介護事業を実施した。
- ② 介護サービス包括型共同生活援助事業を実施した。
- ③ 障がいのある人にやりがいのある仕事を提供できる場（就労継続支援B型事業）を運営した。
- ④ 特定・一般相談支援事業所にて、地域移行・定着・計画相談の充実を図った。
- ⑤ 一人暮らし等への支援として、自立生活援助事業を実施した。
- ⑥ 障がいのある人が充実した地域生活を行えるよう、共同生活支援事業を実施した。
- ⑦ 障がいのある人自らが事業の主体となり、自らが当たり前前に地域で自立した生活を営むために必要な事業や支援を行っていけるよう、ピア人材バンク事業を実施した。
- ⑧ エンディングサポート事業にて、（松山市営鷺谷）入墓された方への対応と希望者との契約を進めた。
- ⑨ 障がいのある方が、生き生きと生活していける場として、サロン事業を実施した。
- ⑩ その他

・コロナ禍で、当法人内でも感染者が出て、その対応等行ってきた。また、発生時の対応に関

しても業務計測計画の変更等を行った。

- ・リモート等を利用した会議の開催等実施できた。しかし、地域交流や家族の集い、ふれあいトーク等は実施できなかった。
- ・周囲に配慮ができるとか報連相ができるとはどのようなことなのか、具体的な行動基準を決めてもらうため委員会を設置し、作成して評価を行った。
- ・自分で考え相談し、企画のできる人を育てるために、企画会議を開催し職員からの企画や業務改善や商品提案を毎月検討した。その結果、昨年度よりも提案が増えてきた。
- ・生活力推進事業運営委員会、回顧録作成委員会、ほっとレターの発行、職員研修、健康診断、職員との面談、病院実習、職種別の研修等を実施した。
- ・各事業にて職員会議、利用者ミーティングの実施、事業全体の運営会議を毎月開催。その他、各種会議、研修会等へ参加した。
- ・障がい者雇用が推進できるよう法人事業間で協議できる体制をとって対応した。
- ・理事会を奇数月の第三土曜日に4回開催した。
- ・冬季賞与時及び年度末に一時金として上乗せ支給を実施した。
- ・防犯、防火対策として各事業で必要な訓練等を実施した。
- ・松山市のこころの健康フォーラムの開催（北条地区・石井地区）に協力した。
- ・実地指導が、くろーばー・ひだま里・口笛・ほっとパートナー・自立であった。
- ・精神保健福祉士1名 合格。
- ・当法人で実施している研修をまとめた冊子を発行することができた。

2 事業の実施に関する事項

定款の 事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	人数
障害者総合支 援法に基づく 障害福祉サー ビス事業	介護サービス包括型 共同生活援助事業 (グループホーム)	通年	松山市内	31名	障がい者39名
	居宅介護事業	通年	松山市内	15名	障がい者51名
	就労継続支援B型事業(す)	通年	松山市内	8名	障がい者31名
	就労継続支援B型事業(ひ)	通年	松山市内	11名	障がい者28名
	就労継続支援B型事業(口)	通年	松山市内	10名	障がい者29名
	特定・一般相談支援事業	通年	松山市内	6名	障がい者69名
	自立生活援助事業	通年	松山市内	2名	障がい者2名
障害者総合支 援法に基づく 地域生活支援 事業	移動支援事業	通年	松山市内	6名	障がい者22名
介護保険法等 に基づく介護 サービス事業	訪問介護事業・ 介護予防訪問介護事業	通年	松山市内	6名	障がい者5名
その他事業	共同生活支援事業	通年	松山市内	5名	障がい者8名
	ピア人材バンク事業	通年	松山市内	5名	障がい者・市民
	エンディングサポート事業	通年	松山市内	6名	ほっとねっと利 用者・家族
	サロン事業	通年	松山市内	6名	障がい者・市民

第3号議案

2022年度事業計画（案）

2022年4月1日から2023年3月31日まで

NPO法人 ほっとねっと

1 事業実施の方針

- ・障がいのある人への理解を推進し、障がいのある人の人権に配慮した街づくりを積極的に行うため、精神障がいのある人の主体性、選択性を尊重した以下の事業を実施します。
- ・介護サービス包括型共同生活援助事業・居宅介護事業・移動支援事業・訪問介護事業・介護予防訪問介護事業・日常生活支援総合事業を実施します。
- ・介護サービス包括型共同生活援助事業では、久米地区と北条地区を一体として対応し、高齢化や重度化に対応できる施設等の建設を進めていきます。また、大の移転を進めます。
- ・障がいのある人にやりがいのある仕事を提供できる場（就労継続支援B型事業）を運営し、地域住民との交流を図ります。
- ・特定・一般相談支援事業にて、障がいのある方の地域生活支援の充実を図ります。
- ・一人暮らし等への移行を希望する方への支援として、自立生活援助事業を実施します。
- ・障がいのある人が充実した地域生活を行えるよう、共同生活支援事業を実施します。
- ・障がいのある人自らが事業の主体となり、自らが当たり前前に地域で自立した生活を営むために必要な事業や支援を行っていきけるよう、ピア人材バンク事業を実施します。
- ・エンディングサポート事業について、利用者や希望者に対して契約等を行います。
- ・松山市から委託事業として、サロン事業を実施し、生活の豊かさを求めていきます。
- ・家族の集いは、本年度中止としますが、毎月家族に利用者の状況を伝えていきます。
- ・生活力推進事業運営委員会、ふりあいトーク、ほっとレターの発行、職員研修・研修の冊子作成、健康診断、職員との面談、職種別の研修等を実施します。
- ・利用者の思いを綴った回顧録の作成を今年度も継続して行っていきます。

- ・各事業にて職員会議、利用者ミーティングの実施、事業全体の運営会議を毎月開催。その他、各種会議、研修会等へ参加します。
- ・理事会を奇数月の第三土曜日に開催予定。
- ・コロナ対策を継続して支援をしていきます。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	対象者
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	介護サービス包括型 共同生活援助事業 (グループホーム)	通年	松山市内	30名	障がい者
	居宅介護事業	通年	松山市内	15名	障がい者
	就労継続支援B型事業(す)	通年	松山市内	8名	障がい者
	就労継続支援B型事業(ひ)	通年	松山市内	11名	障がい者
	就労継続支援B型事業(口)	通年	松山市内	10名	障がい者
	特定・一般相談支援事業	通年	松山市内	6名	障がい者
	自立生活援助事業	通年	松山市内	3名	障がい者
障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業	移動支援事業	通年	松山市内	5名	障がい者
介護保険法等に基づく介護サービス事業	訪問介護事業・ 介護予防訪問介護事業・ 日常生活支援総合事業	通年	松山市内	6名	障がい者
その他	共同生活支援事業	通年	松山市内	2名	障がい者
	ピア人材バンク事業	通年	松山市内	6名	障がい者・市民
	エンディングサポート事業	通年	松山市内	6名	障がい者等
	サロン事業	通年	松山市内	5名	障がい者・市民

ほっとねっと 2022年度の目標

1. 障がいのある人が、あたり前に生活していくことを支援しよう。
2. 周囲に配慮のできる人を育てよう。
3. 報連相ができる人を育てよう。
4. 自分で考え相談し、企画のできる人を育てよう。

◎ グループホーム（介護サービス包括型共同生活援助事業）

ねっとハウス「くろーばー」目標

1. 精神障がいのある方の地域移行に貢献できるようにする。
2. 支援の質を向上させよう。

2021年度の課題

1. 久米窪田の土地に新設する補助金申請について、早くから段取りをして動くべきだった。
2. サテライト型住居に関しても、入居者の希望を聞いておきながら進めることができなかった。
3. 関係機関への報告や連絡について、入院や体調不良等何か変わったことがある方、ある時については病院やB型へ連絡することができた。普段の様子を伝えておこうというところまでできなかった。
4. 申し送りやミーティングでの発言については、当てられなくても、根拠を持って自分の意見が言えるようになると良い。
5. 事務職員がしてくれることはあっても、それぞれの世話人がホームのお金を預かっていることに変わりはないため、無関心ではいけない。

2022年度の実施計画

- 1-①グループホームの新設をする。
- 1-②大の移転や入居者の移動に伴った支援などを計画的に行う。
- 2-①入居者一人ひとりに意識して意図的な関わりを持つ。

◎ 就労継続支援B型事業

すけっと工房目標

1. プログラムを形にする。
2. 事例検討の継続。
3. 利用者の方のニーズに合った事業所の形に検討していく。

2021年度の課題

1. 自主製品を使ってGHへ移動喫茶を実施。今後継続の仕方について進め方、方法を考えていく必要がある。
2. プログラムをきちんと形にする⇒SSTがプログラムに入れることができず。職員の体制もおち着いてきたので、再度再開し、プログラムに入れる。
3. 検討が定期的に行うことができていなかった。法人内研修をもとに定期的実施していく。
また、メンバーさんにすけっとの利用についてのアンケートを実施した事をもとに、今後のすけっと工房の形を検討していく必要がある。

2022年度の実施計画

- 1-①自主製品に関して、継続の仕方について進め方、方法を考えていく。
- 1-②SSTをプログラムの中に入れ込む。自主製品を完成させる。
- 2-①定期的に事例検討を実施する。
- 2-②事例検討で話した内容について翌月報告をする
- 3-アンケートをもとに利用者の方のニーズに合った事業所の形を決めていく。

ひだま里目標

1. 利用者のニーズを知り、やりがいに繋がる授産活動をする。
2. 職員が行っている作業を、利用者が出来るようにするにはどのような工夫をしたらいいか考え実践する。
3. 楽しみをもって生活ができるよう支援する。

2021年度の課題

1. 個別支援計画が具体的でなかった。
2. 授産活動が減少していた。
3. 新規の利用が少ない。

2022年度の実施計画

- 1-①利用者ニーズの確認、振り返りをし、支援内容とつなげる。
- 1-②事例検討を行う。
- 2-①最低2ヶ月に1回営業やポスティングを行う。
- 2-②料理をしたい、して貰いたい利用者で対象を絞り、職員をつけて献立を通して調理する。
- 3-リモート見学や実地見学・体験の実施。

口笛目標

1. 利用者のやりがいや楽しみを充実させる。
2. 利用者と一緒にできる作業体制をつくり、地域に貢献する。
3. なみなみサロンの運営体制を整える。

2021年度の課題

1. 同じような個別支援計画になっていて、職員の役割が具体的でない。対応する職員によって支援内容が変わらないようにする。
2. 自分の担当利用者について責任を持って関わられるようにする。担当でない利用者でわからないことがあった場合に担当者へ確認や報連相が当たり前に行えるようにする。
3. 当たり前に行っていたことを振り返り、作業内容や分担の見直しをする。

2022年度の実施計画

- 1-口笛を利用する目的や意味を理解して支援できる。
- 2-利用者ができる作業方法、職員体制に見直す。
- 3-次年度からの職員体制や活動計画を立てる。

◎ 居宅介護・訪問介護・介護予防・移動支援・日常生活支援総合関係

ヘルパーステーションほっとパートナー目標

1. 現支援件数給付費の維持。
2. 職員の体調管理。
3. 情報の収集・連携。

2021年度の課題

1. 各利用者の計画に沿った支援が提供できているか登録HHからの情報の収集が大切。
2. 少しでも一緒に作業ができるよう声かけが十分できていない。
3. 利用者の生活が向上できるよう関係機関に改善点を伝えきれていない。

2022年度の実施計画

- 1-①関係機関から情報が提供された場合は、HH・職員間で確認し支援先にも確認する。
- 1-②作業内容での改善が必要な場合は、担当HH・職員間で話し合い改善できるように働きかける。
- 2-登録HHのメンタル面・身体面のサポートを行い、できるだけ退職者がでないようにする。
- 3-①担当HH他情報の収集。
- 3-②必要があれば関係機関と連携を図り、支援先の方が生活しやすくなるよう支援する。

◎ 相談支援事業（自立生活援助事業を含む）

相談支援事業所ほっとねっと目標

1. 利用者の方々の思いや希望が表現できて、サービス等利用計画に反映し、実現する。
2. スタッフ間の適時の情報共有に努める。
3. ピアサポートの方との連携を検討していく。

2021年度の課題

1. コロナ禍で地域移行対象者と面会等ができないことが多く、なかなか前に進むことができなかった。今年度もしばらく続きそう。その状況下でも1年未満の対象者がいれば、新規

ケースとして上げていき対応していきたい。

2. 地域移行支援会議等を利用して、新規対象者を上げてもらう。特に地域移行支援加算を取っている病院との連携強化。
3. 支援の質に関して、前年度より意識した関りとなってきているが、まだ十分ではない。給付費の仕組みを再度確認して、支援に活かす。
4. 連絡会や法人内の研修を通して、意図的な面接ができるようにしていきたい。コロナ禍で地域移行対象者と面会等ができないことが多く、進むことができなかった。その状況下でも1年未満の対象者がいれば、新規ケースとして上げていき対応していきたい。

2022年度の実施計画

- 1-①意識して意図的な面接ができるようになる。
- 1-②関りの意図が、説明できる。必要な時に適時介入連絡調整等できる。
- 2-①最低2名以上退院する。
- 2-②地域移行支援会議等を通じて対象者を選んでいく。
- 3-ピアサポートの方がどんな思いでやっているかを知る機会を設ける

◎ 共同生活支援事業

ひまわり目標

1. 支援に関する役割の確認を行う。

2021年度の課題

1. 大家としての役割以上のことをしていたという指摘もあった。役割を明確にしてどう対応するかが課題。

2022年度の実施計画

- 1-①役割を関係機関の方も含め再度確認して支援する。
- 1-②共同住居支援会議を年2回開催する。(9月・3月)

◎ 生活力推進事業運営委員会

- ・委員会を年4回(GH 8・2月 B型 10. 2月)開催する。

- ・利用者から各事業に対し、要望を出してもらい運営会議等で話し合い改善していく。

◎ 家族の集い

- ・コロナのため、今年度は中止とし、ほっとレターや電話等にて日々の状況を伝えていきます。

◎ ピア人材バンク事業

- ・ふれあいトーク事業は、コロナ禍の中での開催ですのでZOOM対応にて年1回開催します。
- ・ピアサポーター、講師派遣事業を推進します。

ほっとねっとピアサポーター37名。松山市ピアサポーター登録者16名。生きる応援相談電話相談員5名

- ・年5回地区別の意見交換会と1回の全体会を開催します。・県外視察に行き、11月に報告会を行います。

◎ エンディングサポート事業

- ・すけっと工房が月1回の清掃を継続。各事務所でエンディングの聞き取りや契約をすすめ、委員会開催時に進捗を確認していく。
- ・委員会を年3回（6. 10. 2月）開催し、支援の在り方について検討します。
- ・8月お盆法要、3月お彼岸法要を行う。

◎ サロン事業

- ・松山市からの委託事業として、小坂地区と中島地区と北条地区にて開催する。

かめかめサロン

- ・小坂地区・北条地区で新型コロナウイルス対策をしながら、参加されているメンバーさんとも相談し、活動を行っていきます。

なみなみサロン

- ・毎月の定例サロン、口笛との合同サロンを開催します。

- ・口笛から参加する合同サロンでは、話が弾みやすくなるように事前にトークテーマを設けて実施します。
- ・バザーや催しが中止になる場合は、口笛からのサロン参加回数を増やし、交流の機会を作ります。

◎ その他

- ・回顧録作成委員会を開催し、利用者の思いを綴った書物を作成していきます。
- ・職員一般研修（面接の技法）を2回（7・12月）開催。
- ・衛生管理・感染予防に関する研修会の開催（9月）。
- ・虐待防止、身体拘束防止のための研修会の開催（1月）。
- ・職種別の研修を精神保健福祉士・社会福祉士（6・10・2月）、介護福祉士・看護師（5月・8月・11月）で開催。
- ・各事業にて職員会議、利用者ミーティングの実施、事業全体の運営会議を毎月開催し、その他各種会議、研修会等へも参加する。
- ・運営会議の中に感染対策委員会、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を設置する。
- ・防災士の受講。

（2）法人関係

- ・理事会を奇数月の第三土曜日に開催する。
- ・働きやすい環境づくりのために、職員に対して年2回、個別面談を実施する。
- ・管理職適性試験の実施。
- ・処遇改善に伴う通知を職員に伝達する。
- ・ほっとレターを年3回発行する。
- ・健康診断を年1回実施する。
- ・愛媛県精神保健福祉協会会長表彰の推薦及び理事長表彰。
- ・関係機関との会議等に法人として必要に応じ参加する。